



# 地域の“人財”の方々との出会いに感謝

下野市立石橋小学校 教諭 平石 秀邦

11月に「小中合同クリーン活動」を実施しました。これは、小中学生が一緒に学校や地域をきれいにすることを通して、異年齢交流を図りながら地域愛を育てていこうとするものです。本校を卒業した石橋中学校の生徒と、大松山運動公園の落ち葉集めをしました。中学生が、移動時に低学年児童の手を引いて歩き、公園内では率先して落ち葉を袋詰めしました。小学生が中学生の力を実感するとともに、中学生にとっても自己有用感が高まる行事となったと思います。

地域での活動や授業で、児童にとっての「本物感」を与えてくださっているのが、地域ボランティアの皆様です。児童の確かな学びが保証される一方、ボランティアの皆様にとっても、技術や知識の伝承、生きがいなどを感じることができ、互恵関係にあるのかなあと考えています。自分は、これからも、学校と地域を繋ぐ接着剤になっていきたいと考えています。

## 令和5～6年度ふれあい学習推進会議について(第2回研修会報告)

下都賀地区ふれあい学習推進会議では2年間、「共生社会の実現に向けた障害者の生涯学習」について協議を重ねてきました。令和5年度は、学校卒業後の障害者が、学び合いつながり合うことができる機会づくりについて協議し、障害の有無にかかわらず共に学ぶ機会のモデルとして、体験学習による学びを提案しました。この取組から、学びによる共生社会の実現のためには、関係部課局団体等の横断的な連携体制の強化や、障害者の生涯学習を支援するプラットフォームを構築することが重要だと考え、令和6年度は「障害のある人もない人も共に学ぶ機会の実現」をテーマに全5回のふれあい学習推進会議で協議してきました。

そして、今年度のふれあい学習ネットワーク(第2回研修会)は、共生社会の一員として障害者が生き生きと生きることに向かう、開かれた学びの場をつくるための、幅広い地域住民の参画を得たプラットフォームのモデルを提案することをねらいとして開催しました。日本赤十字社栃木県支部、中央福祉医療専門学校、とちぎ高校生蔵部、社会福祉法人パステルの方々に講師やボランティアとして御協力いただき、障害の有無に関わらず共に学ぶ機会の提供に向けた手応えを感じるとともに、ねらいとしたプラットフォームのモデルを提案することができました。今後は、本事業で得た学びをまとめ、発信したり、下都賀管内の市町の取組を支援したりすることで、「共生社会の実現に向けた障害者の生涯学習」の充実に努めていきたいと思っています。



- ✿ 発行
- ✿ 事務局

下都賀地区生涯学習研究会  
下都賀教育事務所ふれあい学習課内

ホームページでもご覧いただけます。ふれあい学習課 情報誌・機関紙 で検索してください。

TEL 0282-23-3422  
E-mail shimotsuga-hureai@pref.tochigi.lg.jp

